言語文化研究科

学位プログラム：　言語文化
授与する学位：　博士（言語文化学）

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

言語と文化に関する最先端かつ高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身に付けた人材の育成を目標としています。

○高度な教養

既存の学問領域に捕らわれず、高度な教養を身に付け、学際的観点から複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

グローバル化や情報化が進展する今日、政治・経済・教育などの領域において、世界の諸地域・諸民族の相互理解を成り立たせるためには、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢が必要です。このような社会において、言語や文化の差異を越えて、豊かなコミュニケーションを実らせる高度な言語能力を養います。

○高度なデザイン力

言語文化に関する本質的かつ複雑多様な課題を発見し、解決の道筋を構想できる力を養います。また、言語文化の成り立ちに対する洞察力、得られた知見を多様な情報手段によって発信する能力も養います。

学位プログラム「言語文化」は、博士後期課程を通して、学生にカリキュラム・ポリシーによって編成された科目を履修させ、教員の適切で多面的な指導によって論文作成や研究発表をさせることで、言語文化に関する高度な専門性と深い学識、そして地域社会および国際社会に対する言語文化学的な洞察力を身につけた、学術・文化・教育・社会・産業などの多様な分野でリーダーとして活躍し得る人材を育成します。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「言語文化」は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士後期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に博士（言語文化学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な言語文化に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識を有する。

○高度な教養

・日本及び国際社会の多様な言語文化事象に関して、既存の学問分野に捕らわれない、学際的で幅広い興味・関心及び高度な教養を有する。

・言語情報処理やデータ統計処理に関する能力を有する。

○高度な国際性

・言語文化を研究する立場から、国際化・情報化の進展する現代社会に深い関心を寄せ、それぞれの言語や文化を適切に理解し、尊重しようとする姿勢を有する。

・学際的で幅広い教養に裏打ちされた高度な言語運用能力を有する。

・留学生は、高度な日本語運用能力を有する。

○高度なデザイン力

・言語文化に関する専門分野において、本質的かつ複雑多様な課題を発見し、的確なデータ・文献資料収集を通して、解決の道筋を構想できる能力を有し、独創的・先端的な研究を展開する能力を有する。

・研究成果を日本及び国際的な学術誌に掲載されるような論文を執筆する能力を身につけている。

・日本及び国際学会で研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を有する。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「言語文化」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行われます。

＜教育課程編成の考え方＞

学位プログラム「言語文化」は 6 つの講座によって構成され、カリキュラム・マップに示されているように、以下の３つの履修分野に分かれて教育・研究が行われます。

・履修分野Ⅰ：超領域文化論特別研究、表象文化論特別研究を中心に履修します。
・履修分野 II：コミュニケーション論特別研究、第二言語教育学特別研究を中心に履修します。
・履修分野 III：理論言語学特別研究、デジタルヒューマニティーズ特別研究、史的言語特別研究、言語認知科学特別研究を中心に履修します。

履修分野の科目を、それぞれの履修分野のコア科目群として位置づけていますが、言語文化専攻では、既存の学問領域に捕らわれず、総合的・超域的な言語文化研究を重視することから、従来の学問分野の領域を超えた横断的な教育・研究を可能にする場として、学生は各自の研究関心を深め、広げるために、すべての履修分野の科目を自由に選択し、履修することができます。

学生の研究課題や論文作成の指導については、１名の学生に対し２名の指導教員が担当し、博士論文資格審査に合格すると、さらに１名の指導教員がつき、３名の指導教員が博士論文の指導に当たります。しかしながら、指定された指導教員以外にも言語文化専攻所属の全教員に直接指導を求めることができる「集団指導体制」を取っています。

＜学修内容及び学修方法＞

授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各専門科目の教授内容に合わせ、講義、演習、実習と様々です。

＜学修成果の評価方法＞

各科目のシラバスなどに記載されている学習目標の達成度について、記載されている成績評価の方法（筆記試験、レポート、口頭試験（研究報告を含む）等）を用いて評価します。

以上のように、学位プログラム「言語文化」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ多面的なカリキュラムを提供しています。

言語文化学専攻

博士号取得（言語文化学）

ディプロマ・ポリシー（博士後期課程）達成

高度な国際性・高度な教養・最先端かつ高度な専門性と深い学識・高度なデザイン力 修得

D3
D2
D1

博士論文提出(D3)
博士論文資格審査会(D3)
研究報告会(D2)
研究概要報告書(各年)
研究計画書(各年)

超領域文化論 特別研究
表象文化論 特別研究
第二言語教育学 特別研究
コミュニケーション論 特別研究
言語認知科学 特別研究
理論言語学 特別別研究
史的言語 特別別研究
デジタル ヒューマニティーズ 特別研究

修士号取得（言語文化学）

ディプロマ・ポリシー（博士前期課程）達成

高度な国際性・高度な教養・最先端かつ高度な専門性と深い学識・高度なデザイン力 修得

M2
M1

研究概要報告書
修士論文発表会
修士論文提出
修士論文中間発表会
研究計画書
研究概要報告書
研究計画書

高度国際性涵養教育科目（言語特別演習を含む）

高度教養教育科目

専門教育科目

分野（超領域・表象文化）

超領域文化論
- 超領域文化論
- ジェンダー論
- グローバリゼーション論
- 言語文化共生論
- 言語文化形成論

表象文化論
- 表象文化論
- 言語文化比較交流論
- 翻訳研究

分野（教育・コミュニケーション）

第二言語教育学
- 応用言語学研究
- 第二言語研究法
- 第二言語教育方法論
- 第二言語教育実践研究
- 第二言語社会・文化研究

コミュニケーション論
- コミュニケーション論
- 語用論研究
- 言語技術研究
- 社会言語学研究

異分野間履修可能

分野（認知・言語・DH）

言語認知科学
- 言語認知科学論
- 認知言語学研究
- 認知意味理論研究
- 認知レトリック論研究

理論言語学・デジタルヒューマニティーズ
- 理論言語学
- 心理言語学
- 史的言語研究
- 言語統計学
- デジタルヒューマニティーズ

研究実践基礎 (M1)、研究発表演習 (M2)

異分野の科目を自由に履修可

集団指導体制：2名の指導教員以外にも専攻全員の教員から指導を受けられます

アドミッション・ポリシー